

作戦任務報告書（Tactical Mission Report）にみる空襲一覧表―第 21 爆撃機集団（B29）の多摩への空襲―

多摩地域の戦時下資料研究会 米軍資料部会

はじめに

『多摩のあゆみ』119 号に齊藤勉さんが米軍による多摩空襲を概観する「多摩の空襲」を載せた。この時点では初期空襲の作戦任務報告書は見つかっておらず、この論考の中にある空襲一覧表は、第 21 爆撃機集団（マリアナ諸島に置かれた B29 部隊）の各作戦を一枚ずつにまとめた「作戦任務要約」を訳した『日本空襲の全容』（小山仁示著・東方出版）によって作成されており、正確なものとは言えなかった。

その後、私たち「多摩地域の戦時下資料研究会」は、それまでは無かったとされていた初期の作戦任務報告書が米国立公文書館（U.S.National Archives&Records Administration）に保存されていることを発見した（『多摩のあゆみ』129 号）。そこで国立国会図書館に依頼し、報告書のマイクロフィルムを購入してもらった。この作戦任務報告書は国立国会図書館憲政資料室において、「第 20 航空軍第 20 爆撃軍団作戦任務報告書（Headquarters 20th Air Force 20th Bomber Command Mission Reports 1944-1945）」（米国立公文書館 RG18、憲政資料室分類名 YF-A23）、「第 20 航空軍第 21 爆撃軍団作戦任務報告書（Headquarters 20th Air Force 21st Bomber Command Mission Reports 1944-1945）」（米国立公文書館 RG18、憲政資料室分類名 YF-A24）として所蔵されている。以前から憲政資料室に所蔵されていた「米国戦略爆撃調査団文書：第 20、第 21 爆撃軍団作戦任務報告書（Records of the U.S. Strategic Bombing Survey, Entry 53: Tactical Mission Reports of the 20th & 21st Bomber Commands, 1945）」（米国立公文書館 RG243、憲政資料室分類名 USB-5）と共に、マイクロフィルムによる閲覧が可能である。これで初期空襲から戦後までの報告書が揃ったので、齊藤勉さんと坂田宏之さんと私で、多摩空襲に関する作戦任務報告書を読む「米軍資料部会」を立ち上げた。

作戦任務報告書を読むと言っても、サイパンからの日本初空襲の報告書は 77 ページに及ぶ膨大なもので読み切るのは容易なことではない。そこで、20 回に及ぶ多摩地域空襲の各報告書の始めに書かれている 10 ページ前後の概説を訳して作戦の特徴をつかんでみることにした。この作業も容易なことではなく、現在も進行中である。

B29 による多摩地域空襲一覧表

今回は、米軍の作戦任務報告書により 119 号の空襲一覧表を、より正確・精密なものとするを旨とした。一覧表に載せた項目は、実際の出撃機数、爆撃時間帯、投下爆弾の種類・量、米軍側の爆撃評価、日本の抵抗（対空砲火・迎撃機）、米軍機の被

害など多岐にわたっている。また同時に空襲された他の地域についても爆撃機数や投下爆弾の種類・量などを載せた。また、新たに B29 による多摩地域に対する単機空襲も付け加えた。一覧表を作るには、報告書本文だけでなく別表も参考にしなくてはならず、本文と別表の記述が食い違っていることもしばしばで、完璧なものとは言えないが、現時点では B29 による多摩地域空襲の最も正確な一覧表だと胸が張れると思う。

艦載機や P51 の空襲について調査を進め、多摩地域に対する空襲の全体像を明らかにするのも、今後の課題である。

多摩地域の空襲被害

3 月 10 日の東京大空襲に始まった焼夷弾による大都市空襲の後も、軍需工場に対する爆撃は、沖縄上陸作戦と並行して続けられた。4 月 4 日の夜間空襲について、米軍の報告書は主目標の立川飛行機の被害しか載せていないが、立川では山中坂の防空壕で 42 名の民間人が犠牲となったばかりでなく、柴崎町・羽衣町・錦町・高松町でも犠牲者が出ている。進入路となった日野では 30 人以上が犠牲となり、立川飛行機の北にあたる村山村の真福寺には時限爆弾が投下されている。多摩地域だけでも砂川・田無・三鷹・保谷・府中などにも爆弾が投下されている。『多摩の空襲と戦災』（小沢長治著・けやきブックレット）に「多摩地区の戦災と空襲に関する資料所在目録」が載っている。多摩空襲の全体像を知るのには不可欠な目録である。

空襲を全体として捉える

米軍はこの日、別作戦で静岡航空機発動機工場と中島飛行機小泉製作所（群馬県太田市）を第一目標として爆撃し、第二目標として東京都市部・川崎・静岡市を爆撃している。米軍の作戦任務報告書をもとにした一覧表を見るだけでは、静岡航空機発動機工場（三菱重工業）に 500 ポンド通常爆弾 181.3 トンと 500 ポンド焼夷弾 5 トンが投下されたことしか判らない。しかし、この爆撃では工場には被害はなく、目標をそれた爆弾で静岡地区では 102 名、清水地区では 92 名の死者が出ている。小泉製作所に対する空襲で太田市周辺では 103 名が死亡し、東武沿線随一と言われていた太田駅が炎上した。通常爆弾と焼夷弾で攻撃された川崎では 44 名、横浜では 214 名が犠牲となった。多摩地域のみ空襲を調査するだけでなく、他地域の空襲記録団体等との連携を深め、空襲の全体像を明らかにしていくことが必要だと思う。

（植崎茂彌／法政高校兼任講師）

B 2 9 による多摩地域空襲一覧表

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における										その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要			
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆弾の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆弾の種類・投下トン数	全墜落機数	対空放火によるもの		日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数
						出撃総機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機									
11月24日	No. 7	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京の港および都市工業地域		111機 離陸	88機	第73航空団	24機	240312Z-240532Z [241212] ST-241432JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×163発 (40.75トン)、500ポンド焼夷弾M76×68発 (17トン)	30000 フィート	2/10~9/10の雲量。飛行機の下、高度12000フィートにまだらな層雲。先頭戦隊は、よい爆撃行程を得た。攻撃目標上空の飛行高度(29000フィート)で相当量の巻雲に出会い、搭乗員の何人かは有視界爆撃に影響が出たと報告。指定より低い高度で爆撃することでこれを克服した機もあった。	20機は目視。他は悪天候のためレーダー爆撃を併用	およそ44の炸裂を視認。うち16発は攻撃目標地域。先頭の戦隊が攻撃目標に5発炸裂させ、残りは攻撃目標北西の宿舍や倉庫の地域で炸裂。1発は照準点から2000フィート離れた大きな建物1棟に当たった。18発は照準点の真北1700フィートの小さな宿舍群に当たった。第2戦隊は攻撃目標で11発炸裂。うち2つはクランクや直車を作る工場北東部に位置する大きな建物に当たった。中央の発電設備の北東の端にある小部品工場に炸裂を1つ認めた。発電設備の南西、L形の建物の推進器セクションの中で1つ炸裂が見られたよう。発電設備の南東端の建物にも炸裂がみられた。攻撃目標西端にある大きな建物が部分的に破壊、もうひとつは2発の直撃弾と1発の近接弾で損害を受けた。隣り合った倉庫には2発の直撃弾。照準点の北3000フィートの位置に3発のまとまった炸裂痕。	第1目標には全投下爆弾の7%しか命中していないので、不満足な結果といえる。	第73航空団	64機	500ポンド通常爆弾AN-M64×443発 (110.75トン)、500ポンド焼夷弾M76×186発 (46.5トン)	2機	0機	1機	1機 (ガス欠により北緯17度0分、東経141度20分に着水)	0機	サイパン島に置かれた第21爆撃機集団の日本本土発空襲。軍需工場に対する高々度精密爆撃。野戦命令 (Field Order) No. 21。作戦名「サン・アントニオ No.1」。		
11月27日	No. 8	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京の港および都市工業地域		81機 離陸	62機	第73航空団	計画では87機	計画では270328Z-270446Z [271228] ST-271346JST]	計画では500ポンド通常爆弾AN-M64×609発 (152.25トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×261発 (65.25トン)	計画では28000-30000 フィート	10/10の雲量。北緯32度を最前部とし、攻撃目標の南150マイルから厚い曇り空が攻撃目標の北までも続いていった。その雲頂高度は25000フィート。25000フィートでひどい結氷が報告された。	計画ではレーダーを補助に用いる目視	悪天候で爆撃せず。	悪天候で爆撃せず。	どの爆撃に対しても無し。	抵抗なし	第73航空団	50機が眼下に広がる雲に完全に視界がふさがれた中、レーダーにより第2目標を爆撃。12機が臨機目標である、浜松、静岡、沼津、大阪、千葉県大網白里町付近 (北緯35度30分、東経140度20分) を爆撃。どの場合も眼下に広がる雲に完全に視界がふさがれた中で爆撃であった。	500ポンド通常爆弾AN-M64×460発 (115トン) を第2及び最終攻撃目標に投下。臨機目標には500ポンド通常爆弾AN-M641×30発 (32.5トン) の爆弾を投下。すべてレーダー爆撃	1機は原因は不明だが、攻撃目標を離れた後、不時着水。	0機	0機	1機	0機	軍需工場に対する高高度精密爆撃。野戦命令 (Field Order) No. 22。作戦名「サン・アントニオ No.2」
12月3日	No. 10	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京の港および都市工業地域		86機 離陸	76機 が東京上空に到着。	第73航空団	59機	030503Z-030630Z [031403] ST-031530JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×397発 (99.25トン)、500ポンド焼夷弾M76×169発 (42.25トン)	28000-32499 フィート	天候は晴れ。20000フィートまで層をなした2/10の高層雲、視界は22マイル (視界無限大)。攻撃目標周辺の小さな火災による煙は爆撃行程の障害にはならなかった。偽装も無意味。風は西から200ノットのスピード。	目視	235の炸裂痕。攻撃目標そのものには12発、そのうち6つは中島飛行機武蔵製作所エンジン工場に、1つは北東のカドの古い工場群の中にある、長方形の新しい建物に。1つは南西のカドのシンダー部門に、1つは新しい組立工場に見られる。総投下数の1%が爆撃照準点の1000フィート円内に命中。攻撃目標地域の外では、照準点から3000フィート北 (若干西) に54の炸裂痕。照準点から15000フィート西では、道や線路への直撃弾を伴う29の炸裂痕。照準点の18000フィート北には17のクレーターが見える。攻撃目標北東の2本の線路の間では、46の炸裂痕と火災が4件見える。攻撃目標356の4400フィート北、小さな村落の中に12の炸裂痕。攻撃目標のすぐ南に18の炸裂痕。	攻撃目標の1000フィート円内に命中したのは総投下爆撃数の1%。不満足な結果である。	第73航空団	8機が東京の港および都市工業地域を爆撃。7機が臨機目標の大宮 (北緯35度13分・東経138度37分)・東経140度10分、新島 (北緯34度22分・東経139度17分)、八丈島 (北緯33度8分・東経139度47分)、バガン島を攻撃。	東京の港および都市工業地域に500ポンド通常爆弾AN-M64×56発 (14トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×24発 (6トン)。臨機目標 (大宮・土浦・新島・八丈島・バガン島) に500ポンド通常爆弾AN-M64×48発 (12トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×20発 (5トン)。	1機は基地への掃射中に不時着水、3機が行方不明。	0機	1機	0機	作戦任務番号No.7と同じ野戦命令による二度目の作戦。No.7の作戦が不満足な結果だったことによる再爆撃。野戦命令 (Field Order) No. 21。作戦名「サン・アントニオ No.3」			

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における										その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要			
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆撃の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆撃の種類・投下トン数	全墜落数	対空放火によるもの		日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数
						出撃機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機									
12月27日	No. 16	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京の港湾設備、住宅密集地域	工業都市など	72機	48機	第73航空団	39機	270342Z-270503Z [271242JST-271403JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×160発(40トン)、500ポンド焼夷弾M76×253発(63.25トン)	28300-33800フィート	2/10の雲量、風は260度の方向から155ノット。攻撃開始点から目撃目標が見える、ほとんど完璧の状態。	目視	11の弾着と、2つのそうと見られる弾着が攻撃目標地域に見える。1つの炸裂が、多摩変電所(Tama power plant)北西の道路に見える。直撃弾着が多摩工場の西の倉庫に1つ見える。この直撃弾に起因する大きな爆発が、多摩変電所(Tama power plant)の中に見える。炸裂が2つ、多摩工場のエンジン部品工場の真ん中に見える。多摩の最終組立工場は部分的な弾着もしくは南東の角に大変な近接弾を受けた。この最終組立工場の北側にあるエンジンテスト用の小部屋は2つ近接弾を受けている。武蔵野変電所(Musasino Power plant)東に近接弾が1つ見える。近代的建築の未確認の建物が直撃弾と近接弾を受ける一方で、武蔵製作所最終組立工場の中心は直撃弾を1発受けた。武蔵製作所の東の端にある長い長方形の建物はその南の端に直撃弾を受けた。多摩工場のエンジンテスト小屋のダメージを除いては、11月24日、12月3日におけるこの指令で加えた建物に対するダメージは、明らかに修理されてしまっている。工場内にあるもののダメージがどこまで修理されたかは明言出来ない。	413発をトータルで投下し、照準点の1000フィート以内命中したのは6発。爆撃結果は不満足なものである。立川飛行場に200-300機の飛行機。飛行機の改修センターと思われる。東京の西の飛行場で4発の飛行機(B29やB32に似ている)が高度30000フィートから認められた。	対空砲火の激しさは概して中程度。高射砲弾の炸裂は下方か横、前、後ろに同じような頻度で散らばる。およそ25の焼夷弾の炸裂がみられた。攻撃目標上空で幅1000フィート、25000-34000フィートまで広がる焼夷爆発のような白い大きな爆発がみられた。	およそ140機から272回の攻撃。未確認の直列(串型)双発機から1回、攻撃目標上空32000フィートで双胴機に出会った。接近しての攻撃の場合はよいが、その他の攻撃は不正確であった。しかし数機共同しての迎撃はこれまでの作戦より少し多く見られた。	第73航空団	第2攻撃目標(東京の港湾施設と密集都市地域)6機、最終目標(横浜2機、静岡アルミニウム工場1機)3機、臨機目標4機(シミツポイント近くと大王崎近くの船舶2機、バガン島2機)	500ポンド通常爆弾AN-M64×114発(28.75トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×11発(2.75トン)	3機	1機	0機	1機は離陸後すぐに墜落。1機はエンジンに燃料を送るシステムの故障で墜落。	0機	軍需工場に対する高高度精密爆撃。野戦命令No.34。作戦名「エンキンドルNo.1」。
1月9日	No. 18	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	なし	東京都市地域	72機	51機	第73航空団	18機	090513Z-090535Z [091413JST-091425JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×168発(42トン)	29500-34400フィート	15000フィートに2/10の高積雲、27000フィートに濃くいつまでも残る飛行機雲。攻撃目標上空のコンディションは爆撃に理想的であった。雲も視界も爆撃の邪魔にはならなかった。風はおよそ265度から105km/h、ブリーフィング時の攻撃軸に多少の変移を生じさせた。	目視	武蔵製作所に2つの弾着を確認。工場の周りに28発まき散らされている。	たった2発のみ、トータルで投下した爆弾の0.19%が攻撃目標に着弾した。爆撃結果は不満足なものと結論できる。	150機が迎撃し、目標上空では129回の攻撃。攻撃は不正確だが、前回よりは組織的だった	第73航空団	32機が臨機目標を攻撃(浜松及び浜松周辺6機、豊橋1機、菅島?1機、御前崎1機、伊東港1機、松浦岬1機徳島飛行場3機、北緯34度47分東経137度05分の飛行場1機、岡山1機、和歌山1機、Futamata1機、沼津2機、父島1機、鳥羽2機、Amori2機、新宮2機、宇治山田1機、名古屋1機、静岡1機Otudoi1機、Kamimisaki1機)、1機が東京都市地域	東京都市地域に500ポンド通常爆弾AN-M64×10発(2.5トン)、臨機目標に500ポンド通常爆弾AN-M64×314発(78.5トン)	6機	0機	2機	3機は原因不明の理由で墜落。1機はその他の理由で墜落。	1機(国分寺町に墜落)	多摩地域へのB29の初墜落。野戦命令(Field Order)No.37。作戦名「エンキンドルNo.2」	
1月27日	No. 24	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所、ないしは三菱飛行機名古屋工場	第1目標が曇天時 東京港湾・市街地区、ないしは名古屋市中心部をレーダー爆撃 26日の気象偵察で決定		74機	62機	第73航空団	悪天候で爆撃できず。計画では77機	東京港湾市街地区への爆撃は0504Z-0558Z [1404JST-1458JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×632発(158トン)、500ポンド焼夷弾M76×318発(79.5トン)	悪天候で爆撃できず。計画では30000フィート	本土から75マイルの地点、高度20000フィートで厚く濃い下を覆う雲に出会った。攻撃開始点から攻撃目標までは、高い高度で雲が攻撃目標に向かって増えてきて、攻撃目標では最低でも5/10の積雲、7/10の高層雲が目標を見えなくしていた。上空に吹く風速160ノットの西風が爆撃を困難にした。	計画では目視	悪天候で爆撃せず。	—	多摩地区では無し	多摩地区では無し	第73航空団	【第2目標】東京港湾・市街地区500ポンド通常爆弾AN-M64×439発(109.75トン)、500ポンド焼夷弾M76×216発(54トン) 【最終目標】500ポンド通常爆弾AN-M64×24発(6トン)、500ポンド焼夷弾M76×12発(3トン) 【臨機目標】500ポンド通常爆弾AN-M64×24発(6トン)、500ポンド焼夷弾M76×12発(3トン)	8機	1機	7機(東京上空で激烈な抵抗にあう。目標上空で4機。うち1機は爆発。2機は損傷により不時着。1機はイスレー飛行場で着陸時衝突)	0機	野戦命令(Field Order)No.44。作戦名「エンキンドルNo.3」		

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における													その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要	
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆撃の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆撃の種類・投下トン数	全墜落数	対空放火によるもの	日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数		
						出撃機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機										
2月19日	No. 37	第73航空団、第313航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京港湾・市街地	工業都市などでも可	150機	131機	計画では、第73航空団、第313航空団	計画では156機	0機	多摩では全面を雲が覆い爆撃できなかったが、東京港湾・工業地域は0549Z-0647Z [1449JST - 1547JST]	離陸できた機に積まれていたのは500ポンド通常爆弾AN-M64×859発(214.8トン)、500ポンド通常爆弾AN-M43×510発(127.5トン)、500ポンド焼夷弾500ポンド集束焼夷弾AN-M17A1焼夷弾×429発(107.2トン)、AN-M76×33発(8.2トン)	計画では25000フィート	全面を雲が覆う。飛行機は、悪い視程をさらに減じる霧と巻雲のデッキの中を飛行。12000-14000フィートの空に5/10の高積雲が報告され、雲底高度3000フィート・雲頂高度6000フィートの5/10の層積雲が観測された。飛行高度では飛行機雲がかなりしつこく残った。風は270度から145ノット。	計画では目視	全面を雲が覆い爆撃できなかった。	—	多摩地区では無し	多摩地区では無し	第73航空団、第313航空団	【第2目標】東京港湾・市街地(鐘淵紡績工場、隅田川に架かる橋と隅田操車場など) 第73航空団72機 第313航空団37機 【最終目標】新川?荒居、舞阪、豊橋、静岡、川崎第313航空団7機 【臨機目標】父島、鳥島、バガン島、ロタ島 第73航空団3機	【第2目標】東京港湾・市街地区500ポンド通常爆弾AN-M64×672発(168トン)、500ポンド通常爆弾AN-M43×370発(92.5トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×23発(5.7トン)、500ポンド集束焼夷弾M17-A1×345発(86.2トン) 【最終目標及び臨機目標】500ポンド通常爆弾AN-M64×26発(6.5トン)、500ポンド通常爆弾AN-M43×65発(16.2トン)、500ポンド焼夷弾AN-M76×3発(0.7トン)、500ポンド集束焼夷弾M17-A1×39発(9.8トン)	5機	0機	1機(敵機195機が570回の攻撃)	4機(敵機によって損傷を受けた友軍機の衝突で1機、ガス欠のため着水1機、戦闘被害のため着陸失敗1機、不明1機)	0機	硫黄島上陸作戦に連動させた。日本の戦闘機を引きつけると同時に、優先目標を爆撃する好機と考えていた。野戦命令(Field Order) No. 30。作戦名「エンキンドルNo. 4」
3月4日	No. 39	第73航空団、第313航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京市街地	工業都市などでも可	192機	177機	第73航空団、第313航空団	0機	0機	全面を雲が覆い爆撃できなかったが、東京港湾・工業地域は2340Z-0051Z [0840JST - 0951JST]	全面を雲が覆い爆撃できなかったが、離陸機搭載の爆弾は2000ポンド通常爆弾AN-M66×111発(111トン)、500ポンド通常爆弾AN-M64×1225発(306.3トン)、500ポンド集束焼夷弾M17A1×673発(168.3トン)	計画では25000フィート(従来の結果から30000フィートに比べて正確に投下できると判断した)	全面を雲が覆う。雲頂高度7000フィートの9/10の積雲、8/10の高積雲は雲底高度12000フィート・雲頂高度16000フィート。28000フィートには6/10の巻雲。風は260度から65-85ノット。	計画では目視	全面を雲が覆い爆撃できなかった。	東京市街地でも爆撃写真がとれなかった。また、爆撃効果確認写真でも今回の爆撃効果を確認することは出来なかった。	多摩地区では無し	なし	第73航空団、第313航空団	【第2目標】東京市街地 第73航空団94機 第313航空団65機 【最終目標】浜松、静岡、清水、下田、大宮、豊橋17機 【臨機目標】マウグ 1機	【第2目標】東京都市部、2000ポンド通常爆弾AN-M66×88発(88トン)、500ポンド通常爆弾AN-M64×978発(244.5トン)、500ポンド集束焼夷弾M17A1×589発(147.3トン) 【最終目標】【臨機目標】2000ポンド通常爆弾AN-M66×12発(12トン)、500ポンド通常爆弾AN-M64×137発(34.3トン)、500ポンド集束焼夷弾M17A1×24発(6トン)	1機(不時着水)	1機	0機	0機	0機	高々度精密爆撃はここまで。野戦命令(Field Order) No. 42。作戦名「エンキンドルNo. 5」
4月2日	No. 51	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	東京工業市街地	なし	121機	115機	第73航空団	115機	1702Z-1829Z [0202JST-0329JST]	500ポンド通常爆弾M64×4075発(1018.8トン)、53ポンド照明弾M-26×368発	5830-7960フィート	晴れてはいたが、霧のために視程は4-6マイルであった。	目視爆撃17機 レーダー攻撃98機	被害は軽微。爆撃後の写真では新しい被害は見当たらない	霧と照明弾の反射で目標確認が難しかった。探照灯も目標確認を邪魔した。	2機が撃墜され、9機が損害を受けた。ロケット攻撃を受ける	25機・35回攻撃	他の目標は爆撃しなかった。	0機	0機	7機	2機	1機	4機(離陸直後に墜落1機、攻撃目標往路での衝突2機、行方不明1機)	3機(町田市町田・西多摩郡吉野村・東村山秋津)	軍需工場に対する夜間精密爆撃の実験。作戦任務報告書はNo. 48(攻撃目標:三菱飛行機名古屋発動機工場)。とセット。野戦命令(Field Order) No. 70。作戦名「エンキンドルNo. 6」	

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における										その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要				
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆弾の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆弾の種類・投下トン数	全墜落数	対空放火によるもの		日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数	
						出撃機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機										
4月4日	Na.55、Na.56、Na.57	第73航空団、第313航空団、第314航空団	【作戦No.55】静岡航空機発動機工場、【作戦No.56】中島飛行機小泉製作所、【作戦No.57】立川飛行機	東京都市部・川崎	静岡	230機	219機	第73航空団	61機	1730Z-1934Z [0230JST-0434JST]	500ポンド通常爆弾M64×1899発(474.8トン)、500ポンド通常爆弾M-64-A1×61発(15.3トン)、100ポンド焼夷弾M-47-A2×368発(12.7トン)、53ポンド照明弾M-26×80発、攻撃目標識別弾M-90×8発	5700-7000フィート	9/10の低層雲、雲底高度2000フィート、雲頂高度5000フィート。10/10の中層雲、雲底高度13000フィート、雲頂高度15000フィート。の飛行機の下に広がる雲。風は、250度の方向から28ノット	目視爆撃3機、レーダー爆撃58機	工場の365,081平方フィート、工場の屋根に覆われた面積のうちの12.7%が損害。あわせておよそ46,000平方フィートに相当する、7つの小さく雑多な建物が破壊。最近までの総損害はおよそ505,081平方フィート、すべての屋根で覆われた面積の17.5%	第73航空団と第313航空団では照明弾はあまり役に立たなかった。第314航空団では照明弾が強い光を発しすぎ、かえって目標の位置同定を難しくした。英空軍のターゲット同定爆弾(1000ポンド)とレフレックス爆撃照準器は、爆撃手がターゲットの位置確定に援用するためにこれまでずっとオーダーされてきている。	大口径から中口径の対空砲火。火器の大半は貧弱で照準が不正確	敵機が22機視認、3回の攻撃	【第1目標】静岡航空機発動機工場(作戦No.55・第314航空団)、中島飛行機小泉工場(作戦No.56・第313航空団) 【第2目標】東京都市部(作戦No.56・第313航空団)、川崎(作戦No.57・第73航空団) 【最終目標】静岡地域(作戦No.57第73航空団)	【第1目標】静岡航空機発動機工場 48機 中島飛行機小泉工場 43機 【第2目標】東京都市部 18機 川崎 48機 【最終目標】静岡地域 1機	【第1目標】静岡航空機発動機工場に500ポンド通常爆弾M64×705発(181.3トン)、500ポンド焼夷弾M76×20発(5トン)。中島飛行機小泉工場に500ポンド通常爆弾M-64×1099発(275トン)。 【第2目標】東京都市部に500ポンド通常爆弾M-64×517発(129トン)。川崎に500ポンド通常爆弾M-64×1500発(375トン)、100ポンド焼夷弾M47-A2×552発(19トン)、53ポンド照明弾M-26×54発。 【最終目標】静岡地域に500ポンド通常爆弾M-64×38発(9.5トン)、53ポンド照明弾M-26×2発。	1機	0機	0機	1機(原因不明で方向不明)	0機	軍需工場に対する夜間精密爆撃の実験。作戦任務報告書はNo.55(静岡の航空機エンジン工場、目標番号2011)、No.56(中島飛行機小泉組立工場)と、No.57(立川飛行機)とセット(全て同じ野戦命令(Field Order) No.52。作戦名「モデラーNo.1」)	
4月7日	Na.58	第73航空団	【目視】の場合、中島飛行機武蔵製作所。【レーダー】川崎市街地	指定しない	指定しない	107機	103機	第73航空団	101機	0100Z-0106Z [1000JST-1006JST]	2000ポンド通常高炸裂爆弾AN-M-66×490発(490トン)	11500-15650フィート	晴天・視界無限大。1/10の雲、雲頂高度4000フィート。風は265度から65ノット。	目視	No63とまとめて報告されているために、特定できない。爆撃は東工場に集中し、3つの大きな工作機工場、2つの鋳造(?)工場を大破した。東地区のもう1つの工作機工場を76%破壊した。西地区には損害を与えられなかった。	—	大口径で、今までにないほど激しく、正確。移動阻止射撃。	強力。170機の敵機が視認され、うち125機から531回攻撃される。高射砲の炸裂をものともせず、攻撃を続けた。体当たり攻撃の企てが4件ほどあった。	第73航空団	静岡と新島の飛行場に2機	2000ポンドAN-M-66通常高炸裂爆弾×10発(10トン)	5機(B29×3機、P51×1機)	B29×2機(目標上空・脱出を確認出来ず)	B29×1機(焼夷弾による)、P51×2機	0機	B29×1機(調布市国領・布田)	軍需工場に対する夜間精密爆撃の実験は中止。その代わり、硫黄島に配置したP51護衛による初めての作戦。作戦任務報告書はNo.63とセット。野戦命令(Field Order) No.53。作戦名「エンキンドルNo.7」	
4月12日	Na.63	第73航空団	中島飛行機武蔵製作所	指定しない	指定しない	114機	107機	第73航空団	94機	0208Z-0221Z [1108JST-1121JST]	2000ポンド通常高炸裂爆弾AN-M-66×490発(490トン)	17500-11850フィート	多摩川から攻撃目標までの間の上空に濃い霧がかかり、2-5マイルの視程。3/10の低層雲、雲底高度3000フィート、雲頂高度5000フィート。2000フィートに2/10の中層雲。風は300度から25ノット。地表付近は270度から8ノット。	79機が目視、15機がレーダー爆撃	2編隊だけが主目標工場の東部分爆撃に成功した。他は目標から2000フィート〜7マイル外れたところを爆撃した	大口径高射砲による中程度から激しい攻撃。35機が被害を受ける。	中程度。敵機50機から105回の攻撃。戦闘機の援護によって敵機はB29に近づけなかった。敵機11機撃墜、10機に損傷、P51も10機撃墜	第73航空団	静岡飛行機エンジン工場に11機、新島に1機と三宅島に1機	静岡飛行機エンジン工場、新島と三宅島に2000ポンドAN-M-66通常高炸裂爆弾×66発(66トン)	4機(B29×0機、P51×4機)	B29は0機。P51は対空砲火か日本軍機によるものかは不明。	B29は0機。P51は対空砲火か日本軍機によるものかは不明	P51×4機(墜落原因不明)	B29もP51も0機	部隊を2つに分け、一部は55分前に出撃し、福島県郡山を爆撃に向かう。敵戦闘機をおびき出し、主目標爆撃を容易にする作戦がとられた。作戦任務報告書はNo.58とセット。野戦命令(Field Order) No.55。作戦名「エンキンドルNo.8」		
4月13日	WSM371	—	立川	—	—	—	1機	—	—	1306Z [2206JST]	500ポンド通常爆弾×10発(2.5トン)	25000フィート	雲量1/10、ひどいもや	目視	未確認	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4月18日	WSM386	—	中島飛行機武蔵製作所	—	—	—	1機	—	—	1803Z [0303JST]	500ポンド通常爆弾×12発(3トン)	29000フィート	雲はなし	目視	未確認	—	5つの爆発、不正確	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における										その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要				
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆弾の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆弾の種類・投下トン数	全墜落数	対空放火によるもの		日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数	
						出撃機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機										
6月10日	No. 197	第73航空団	【目視】中島飛行機武蔵製作所【レーダー】日立航空機海岸工場(発動機工場)	なし	なし	124機	118機	第73航空団	0機	悪天候により爆撃せず	予定では2000ポンド通常爆弾AN-M66×866発(866トン)	予定では19000フィート	全面を雲が覆う	目視爆撃	爆撃せず	残った多摩工場部分の半径500フィートに爆弾を集中する予定だった。	目標近くに重高射砲9～30基、立川の東に30基	悪天候により迎撃せず	第73航空団	【レーダー第1目標】日立航空機海岸工場118機【臨機目標】八丈島1機、橋(北緯34度42分・東経132度50分)1機	【レーダー第1目標】日立航空機海岸工場2000ポンド通常爆弾AN-M64×806発(806トン)この爆撃は正確に行われ96.8%を破壊した。【臨機目標】000ポンド通常爆弾AN-M64×14発(14トン)	1機	0機	1機(敵機が接触)	0機	0機	0機	天候が良いこの時期に、No.195からNo.200までの6つの作戦任務を同時並行で遂行。作戦番号195・第58航空団中島飛行機大宮工場(レーダー霞ヶ浦海軍飛行場)、作戦番号196・第58航空団・日本航空機(富岡)、作戦番号197・第73航空団・中島飛行機武蔵製作所(レーダー日立航空機海岸工場)、作戦番号198・第314航空団・日立航空機千葉工場、作戦番号199・第314航空団・中島飛行機茨城工場(レーダー霞ヶ浦海軍飛行場)、作戦番号200・第314航空団・立川陸軍航空工廠(目視・レーダーとも)。第7戦開機集団P51×118機が離陸、援護。野戦命令(Field Order)は作戦番号No.195-200まで全てNo.85。作戦名はなし。
6月10日	No. 199	第314航空団	【目視】中島飛行機茨城工場【レーダー】霞ヶ浦海軍飛行場	なし	なし	67機	65機	第314航空団	1機(臨機目標として立川航空工廠を爆撃)	2254Z[0754JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64、投下爆弾数およびトン数は不明(1機搭載分)	21500フィート	記録なし。作戦番号200に同じか。	記録なし。作戦番号200に同じか。	臨機目標のため記録なし。	臨機目標のため記録なし。	臨機目標のため記録なし。	臨機目標のため記録なし。	第314航空団	霞ヶ浦海軍飛行場に45機、中島飛行機茨城工場7機、立川陸軍航空工廠1機、浜松2機、爆撃先不明1機	第1目標、臨機目標まとめて500ポンド通常爆弾1209発AN-M64(302.3トン)	1機	1機(掃投中に海に墜落)	0機	0機	0機	同上。野戦命令(Field Order) No.85。作戦名はなし。	
6月10日	No. 200	第314航空団	【目視・レーダー】立川航空工廠	なし	なし	34機	32機	第314航空団	29機	2252Z-2257Z[0752JST-0757JST]	500ポンド通常爆弾AN-M64×654発(163.5トン)	21000フィート	全面を雲が覆い、レーダーを使用	レーダー	東北・東南地区に爆撃を集中した。爆弾の31.3%は爆撃中心点の1000フィート以内に着弾。施設の27.8%を破壊した。	南西から進入し北に抜けた。追い風を利用し対空砲火地区を避けることが出来た。	行きに八丈島上空と富士山付近で貧弱な砲撃がされた	帰路に25機によって35回の攻撃を受けた。うち7回は上方から急降下攻撃	第314航空団	八丈島1機、日立航空機千葉工場1機、焼津飛行場1機	500ポンド通常爆弾AN-M64×72発(18トン)	0機	0機	0機	0機	0機	同上。野戦命令(Field Order) No.85。作戦名はなし。	
7月29日	No. 11	第313航空団所属・第509混成群団	郡山軽工業	中島飛行機武蔵製作所	【臨機目標】郡山操車場	8機	8機	第509混成群団	2機	0923JST	10000ポンド・パンブキン爆弾(模擬原爆)1個・5トン	29300フィート	快晴	目視	4時方向2900フィートに着弾した。貧弱な結果	報告書には正田飛行機工場を爆撃したとされているが、緯度経度は中島飛行機武蔵製作所に一致する。付票は中島飛行機武蔵製作所としている。	記述無し	B29の機数が少なく、高度も高かった。敵の戦力も低下しており、第509混成群団の作戦全体をとおして敵機の迎撃はなかった。	第509混成群団 郡山軽工業 郡山操車場	郡山軽工業1機、郡山操車場1機	両目標に、10000ポンド・パンブキン爆弾(模擬原爆)1個・5tを投下	0機	0機	0機	0機	0機	原爆投下のための第509混成群団は、7月19日～8月14日にかけて日本に対する特殊爆撃任務(no1～no18)を遂行した(広島・長崎への原爆投下を含む)。野戦命令(Field Order) No.11	

日付	作戦任務番号	作戦全体に参加した航空団	目標			多摩地域の目標における													その他の攻撃目標			墜落機数					作戦の概要
			第1目標	第2目標	最終目標	出撃爆撃機数		航空団	爆撃機数	爆撃の時間帯	爆弾の種類・投下トン数	爆撃高度	天候	爆撃方法	爆撃結果	コメント	日本側の抵抗		航空団	爆撃機数	爆弾の種類・投下トン数	全墜落数	対空放火によるもの	日本軍機によるもの	その他	多摩への墜落機数	
						出撃総機数	実際の爆撃機数										対空砲火	迎撃機									
8月2日	No.306	第58航空団	八王子市街地	なし		180機	169機	第58航空団	158機 (他に11機が照明弾投下用先導機)	011545Z-011729Z (020045-020229 JST)	100ポンド焼夷弾AN-M47A2×1992発(68,8トン)、500ポンド集束焼夷弾AN-M17A1×6098発(1524.5トン) (4ポンドマグネシウム(エレクトロン)焼夷弾AN-M50を1発につき110発集束。合計約67万個)	14800-16000フィート	視界を遮る雲があったが、爆撃の進行とともに目標上空では消散	97機が目視、72機がレーダー	市街地総面積1.4平方マイル(3.6平方キロ)のうち1.12平方マイル(2.9平方キロ)が焼失、全市街地に対する破壊比率は80%。「米国戦略爆撃調査団報告書」No.66の資料ではこの破壊率は爆撃を受けた66都市の中で5番目。	敗戦後、米国戦略爆撃調査団は八王子など全国8都市への焼夷弾空襲を調査、「対日焼夷弾攻撃の効果-8都市に関する報告-」として報告。八王子はM50の効力の評価を行う。それによれば、八王子は高比率の消防士と消防設備が空襲に備え待機していた都市空襲の中で唯一のケースだったが、焼夷弾の量の多さと給水が中断されたこと、「火の旋風(ワイルドーム)」が発生したことで火災を防ぎきれなかった。	目標に侵入する途中の沼津、松崎で貧弱で不正確な重高射砲の砲撃を受ける。目標上空では貧弱で不正確な中高射砲と重高射砲を受ける。サーチライト活動は非常に有効から無効との報告。	40~50機が飛び立ったと思われるが、実際の攻撃は6回のみ。攻撃してきたのは6~7機。	第58航空団	母島、沼津、下田、横須賀に各1機がレーダーで投下。	臨機の目標にAN-M17を92発(23トン)、AN-M47を184発(6.3トン)を投下。	1機	0機	0機	1機(千葉に墜落)	0機	爆撃の心理的効果を増大させるために空襲直前に予告リーフレットを散布、サイパンからのラジオ放送を行うなど心理作戦の第2回目。作戦任務報告書はNo.307(富山都市地域)、No.308(長岡都市地域)、No.309(水戸都市地域)とセット。野戦命令(Field Order) No.12。作戦名はなし。
8月8日	No.320	第314航空団	【目視】中島飛行機武蔵製作所。しばしば攻撃目標となってきたが多摩セクションは比較的損害を被っていないので【レーダー】東京陸軍造兵廠群	指定しない		69機	51機	第314航空団	51機(TMR Mission No.320の41頁には50機。攻撃目標上空で撃墜された1機(マイナスカ)	080727Z-080735Z [081627-081635JST]	2000ポンド高炸裂通常爆弾AN-M66×239発(239トン)。	19500-22450フィート	晴天。内陸部上空に孤立した積雲。風は高度20000フィートで170度方向から18ノット	目視	爆撃中心点から1000フィート以内に135(投下爆撃数の62%)の炸裂。攻撃目標上には75の炸裂。爆撃中心点から1000-2000フィート以内には78の炸裂(投下爆撃数の38%)。照準点の建物や東側に近接する大きな建物の上や近くで集中的に炸裂。照準点から1000-2000フィート南、1000-2000フィート北西にも集中した炸裂。	爆撃の正確さは優秀。総投下数の62%が爆撃照準点の1000フィート以内に着弾。激烈な敵の抵抗下で爆撃を完遂させ、作戦は大成功であったと考えられる。	攻撃目標に進入中、高射砲に最初に遭遇したのは立川上空。30秒間隔での移動阻止射撃()。攻撃目標地域の高射砲は激烈で正確。	なし	第314航空団	9機が20000-20800フィートから東京陸軍造兵廠群を爆撃。2機が臨機目標の島田を爆撃	東京陸軍造兵廠群にAN-M66×50発(50トン)、島田にAN-M66×8発(8トン)	2機	2機	0機	0機	1機(北多摩郡谷保村)	作戦任務報告書はNo.319(目標:八幡製鉄所)とセット。野戦命令(Field Order) No.16。作戦名はなし。

この表は、マリアナ諸島におかれた第21爆撃機集団の作戦任務報告書をもとに、多摩地域の軍事施設と都市を目標にした空襲にかぎって作成した。これ以外にも、爆弾投棄の空襲や艦載機やP51による空襲があるが、この表には掲載していない。今後、これらの空襲について、どのように入れるか検討する必要があると感じている。

時刻の表記: 240312Zなどの数字は時刻表示。24時間制で「Z」はグリニッジ標準時(世界時)のことである。240312Zの場合、「24日3時12分世界時」となる。これに9時間000900を加えて日本時間に換算し、[]内にJST(Japan Standard Time)を入れて[241212JST]と示した。

爆弾の種類: General Purpose bombは「通常爆弾」と訳した。

【参考文献】
「墜落米軍機調査」(GHQ/SCAP Records 米国立公文書館RG331)
「東京大空襲・戦災誌」編集委員会『東京大空襲・戦災誌』第3巻、東京空襲を記録する会、1973年
立川市文芸同好会『この悲しみをくり返さない 立川空襲の記録』けやき出版、1982年
「工業英語」編集部『軍事用語辞典』アイビーシー、1987年
奥住喜重『米軍新資料-八王子空襲の記録-』揺籃社 2001年